

The logo for azbil, featuring the word "azbil" in a bold, red, lowercase sans-serif font.

人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

2016年度(2017年3月期)

第1四半期決算 補足説明資料

目次

1. 2016年度(2017年3月期) 第1四半期累計期間
連結業績
2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画
→直近の公表から修正なし
3. 株主の皆様への利益還元
→直近の公表から修正なし



アズビル株式会社は
2016年に創業110周年を迎えます。

2016年8月3日

- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。
 - B A: ビルディングオートメーション
 - A A: アドバンスオートメーション
 - L A: ライフオートメーション
- 3) azbilグループの売上高は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。
ただし、当第1四半期連結会計期間につきましては、前連結会計年度末の受注残高の積み上がりを背景に、売上高が増加しております。
- 4) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。
- 5) 新基幹情報システム導入を契機として、2015年度より以下の管理体制の強化・会計方針の変更を実施しています。
 - ① 複数年契約の受注計上範囲の見直し
(BA事業に影響、従来の市場化テスト等大型のサービス案件だけでなく全ての複数年契約を計上)
 - ② 国内における物品販売の売上計上基準を出荷基準から着荷日に収益を認識する方法に変更
(BA、AA事業に影響、影響は軽微)
 - ③ セグメント間の内部売上高又は振替高の測定方法変更
(BA、AA事業に影響、影響は軽微。比較のため、本資料における2014年度の受注高、売上高につきましては変更後の測定方法で見直しています)
 - ④ ジョブ損益管理方法の統一 (主にBA事業に影響、損失引当金計上基準見直しに伴う一時的な費用増加等)

**1. 2016年度(2017年3月期)
第1四半期累計期間 連結業績**

1. 2016年度(2017年3月期) 第1四半期累計期間 連結業績 経営成績



＜対前年同期＞

■【受注高・売上高】

受注高は、前年度における受注計上範囲の見直しや大型案件計上の反動による影響を受けたBA事業及び同じく前年同期の大型案件計上の影響を受けたLA事業の減少により全体として減少。売上高は、前年度末における受注残高の積み上がりを背景としたBA・AA事業の伸長を中心に、全事業で増加。

■【利益】

受注残高の積み上がりを背景とした大幅な増収効果に加えて、前年同期においてジョブ損益管理方法の統一を行ったことによるマイナス影響の反動及びのれん償却費の減少等により営業利益が大きく改善し、黒字化。為替差損(8億円)があるものの経常利益も前年同期比で大きく改善し、親会社株主に帰属する四半期純利益も1億円弱の損失。

[単位：億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	822	878	△56	△6.4
売上高	561	492	+68	+13.9
国内	460	388	+71	+18.5
海外	100	104	△3	△3.2
売上総利益	181	159	+21	+13.4
%	32.3	32.4	△0.1P	
販売費及び一般管理費	173	178	△5	△3.0
(内のれん償却額)	(0)	(1)	(△1)	
営業利益	7	△19	+26	-
%	1.4	△3.9	+5.2P	
経常利益	1	△16	+18	-
税金等調整前四半期純利益	0	△14	+15	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△0	△13	+13	-
%	△0.1	△2.8	+2.7P	

1. 2016年度(2017年3月期)第1四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - BA事業



<対前年同期>

■【受注高・売上高】

受注高は、前年度における複数年契約受注計上範囲の見直しの影響や前年同期に大型案件が計上されていたことの反動により減少。売上高は、堅調な国内建設投資動向を受けて積み上がった受注残高が、当第1四半期連結累計期間において着実に売上計上され、全体として大きく増加。

■【セグメント利益】

採算性の良い既設建物向け市場での増収効果に加えて、前年同期においては、新基幹情報システム導入を機におこなったジョブ損益管理方法の統一によるマイナス影響があったことの反動もあり、セグメント利益は大きく改善。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	489	514	△24	△4.8
売上高	233	198	+35	+17.6
セグメント利益	△3	△17	+14	-
%	△1.3	△8.7	+7.4P	
(ご参考) のれん償却額	-	-	-	

1. 2016年度(2017年3月期) 第1四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - AA事業



<対前年同期>

■【受注高・売上高】

受注高は、国内外において設備投資が足踏み状態にある中、前年同期水準を確保。売上高は、海外が為替の影響もあって減少したが、国内においては半導体・電池関連向けの製造装置等、一部市場に回復傾向が見られ、素材関連の分野においては、前年度末に積み上がったシステム・サービス案件の受注残高が着実に売上計上されたことで大きく伸長し、事業全体としても増加。

■【セグメント利益】

円高の影響を受けたものの、国内における増収、及び国内外での利益体質改善の取組みが奏功し、セグメント利益は増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	224	224	+0	+0.1
売上高	226	193	+33	+17.2
セグメント利益	10	△ 1	+11	-
%	4.5	△ 0.6	+5.0P	
(ご参考) のれん償却額	0	0	△ 0	

1. 2016年度(2017年3月期)第1四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - LA事業



<対前年同期>

■【受注高・売上高】

受注高は、ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野が、前年同期における大型案件受注の反動を主因に、為替の影響もあって減少し、全体としても減少。売上高は、住宅用全館空調の分野が増収となったが、為替の影響を受けてLSE分野が減少したため、全体としては前年同期水準となる。

■【セグメント利益】

ガス・水道メータの分野は都市ガスメータの減収影響等により減益となったが、のれん償却費の減少、LSE分野、住宅用全館空調分野の改善により全体として黒字化。

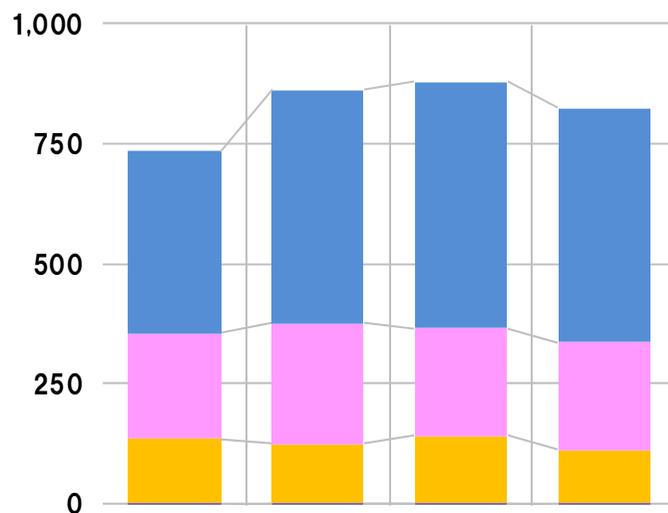
[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	111	140	△29	△20.8
売上高	103	102	+0	+0.3
セグメント利益	0	△0	+1	-
%	0.5	△0.8	+1.3P	
(ご参考) のれん償却額	-	1	△1	

1. 2016年度(2017年3月期)第1四半期累計期間 連結業績 [参考]セグメント別受注高 推移



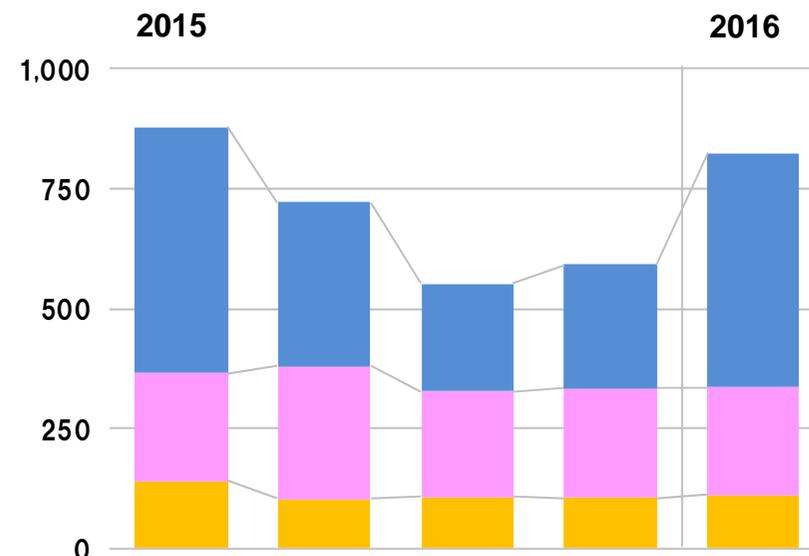
<同期比較>



年度	2013 1Q	2014 1Q	2015 1Q	2016 1Q
■ BA事業	380	※1 486	514	489
■ AA事業	219	250	224	224
■ LA事業	134	※2 124	140	111
連結	730	860	878	822

<四半期推移>

[単位: 億円]



年度	2015 1Q	2Q	3Q	4Q	2016 1Q
■ BA事業	514	341	224	258	489
■ AA事業	224	277	219	227	224
■ LA事業	140	103	108	105	111
連結	878	718	548	589	822

※1 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上しています。

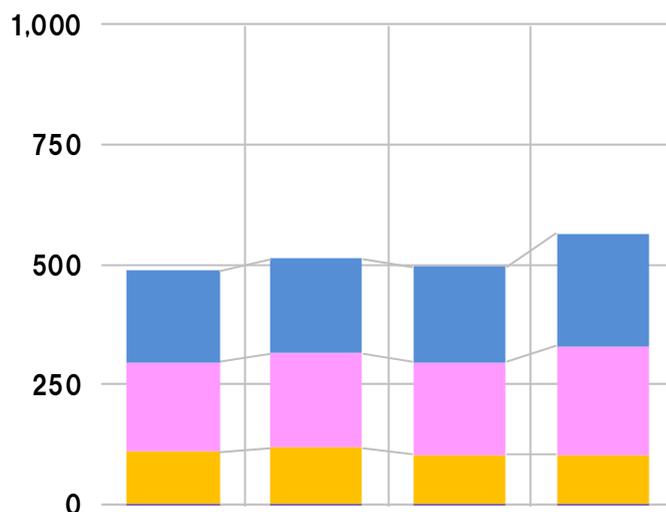
※2 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。

なお、受注高については2014年度第3四半期までを連結しております。

1. 2016年度(2017年3月期)第1四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別売上高 推移



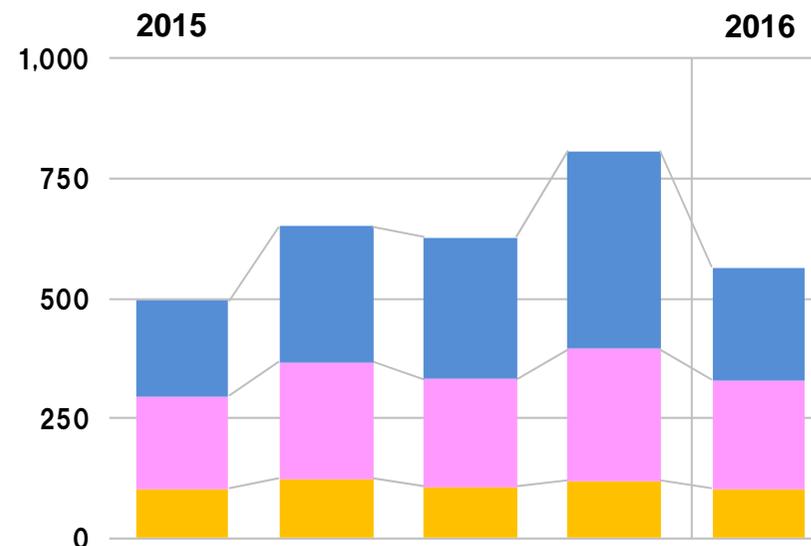
<同期比較>



年度	2013 1Q	2014 1Q	2015 1Q	2016 1Q
■ BA事業	191	197	198	233
■ AA事業	186	197	193	226
■ LA事業	109	※ 117	102	103
連結	485	510	492	561

<四半期推移>

[単位: 億円]



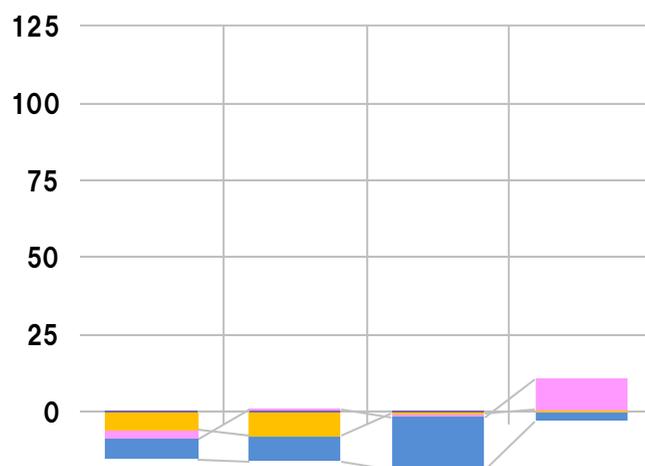
年度	2015 1Q	2Q	3Q	4Q	2016 1Q
■ BA事業	198	283	294	411	233
■ AA事業	193	242	224	274	226
■ LA事業	102	124	108	120	103
連結	492	648	624	803	561

※ アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

1. 2016年度(2017年3月期)第1四半期累計期間 連結業績 [参考]セグメント利益(営業利益)推移



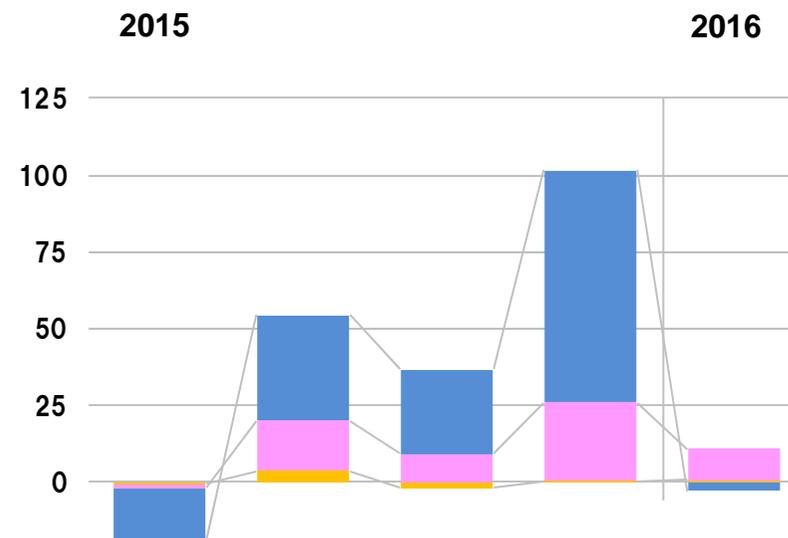
<同期比較>



年度	2013 1Q	2014 1Q	2015 1Q	2016 1Q
■ BA事業	△6	△8	△17	△3
■ AA事業	△2	0	△1	10
■ LA事業	△5	※ △7	△0	0
連結	△15	△15	△19	7

<四半期推移>

[単位: 億円]



年度	2015 1Q	2Q	3Q	4Q	2016 1Q
■ BA事業	△17	34	27	75	△3
■ AA事業	△1	16	9	25	10
■ LA事業	△0	3	△2	0	0
連結	△19	54	34	101	7

※ アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

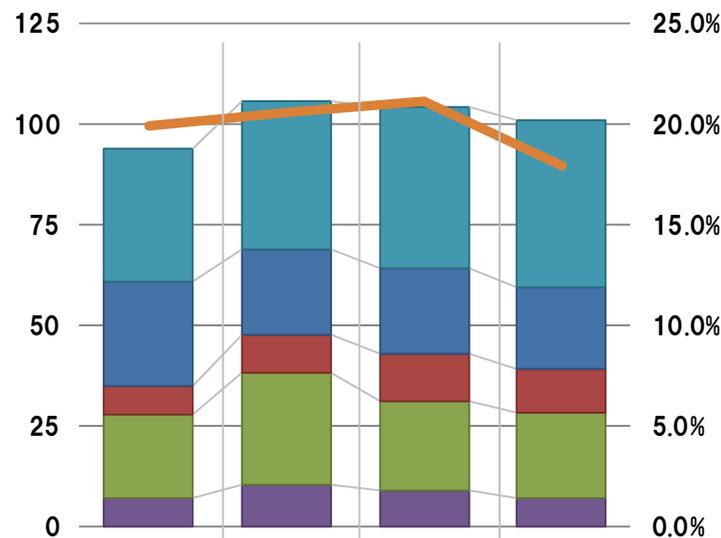
1. 2016年度(2017年3月期) 第1四半期累計期間 連結業績 海外エリア別売上高



[単位: 億円]

海外売上高は、製造業の設備投資の減速と全般に為替の影響を受け、減収となる。

- アジア地域は、システム製品販売の伸長によりAA事業は増収したが、BA事業が減少し、全体としては微増。
- 中国は、大型案件計上等によりBA事業が伸長したが、AA事業が素材関連分野での減収を主因に減少し、全体としては前年同期並み。
- 北米は、前年同期比で半導体装置メーカー向けの需要が減少したため、減収。
- 欧州は、AA事業、LSE分野(LA事業)ともに前年同期水準となる。



年度	2013 1Q	2014 1Q	2015 1Q	2016 1Q
アジア	33	36	40	41
中国	26	21	20	20
北米	7	9	12	10
欧州	21	28	21	21
その他	7	10	9	6
連結	96	105	104	100

(ご参考)

海外売上高%	19.9%	20.6%	21.1%	18.0%
期中平均レート(USD)	92.47	102.78	119.17	115.33
期中平均レート(EUR)	122.06	140.80	134.00	127.11

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでいません。

※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しています。

1. 2016年度(2017年3月期)第1四半期累計期間 連結業績 財政状態



- 資産 売上が季節性により第2・4四半期に集中する一方、第1・3四半期において回収が進むことから、第1四半期末としては売上債権が大きく減少し、全体として155億円の減少。
- 負債 仕入債務の減少に加え、主に、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少と賞与支給による賞与引当金の減少により、全体として113億円の減少。
- 純資産 主に配当金の支払いにより利益剰余金が減少し、その他有価証券評価差額金の減少を主因としてその他の包括利益累計額が減少したことから、全体として42億円の減少。

[単位: 億円]

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
流動資産	1,874	2,008	△ 133	負債	908	1,021	△ 113
現金及び預金	521	482	+39	流動負債	781	889	△ 107
受取手形及び売掛金	791	917	△ 126	仕入債務	404	455	△ 51
棚卸資産	246	241	+5	短期借入金・社債	120	120	+0
その他	314	366	△ 52	その他	257	313	△ 55
固定資産	561	583	△ 21	固定負債	126	132	△ 5
有形固定資産	240	243	△ 2	長期借入金・社債	5	6	△ 0
無形固定資産	55	56	△ 1	その他	120	126	△ 5
投資その他の資産	264	282	△ 17	純資産	1,527	1,569	△ 42
資産合計	2,435	2,591	△ 155	株主資本	1,441	1,466	△ 25
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	123	123	+0
				利益剰余金	1,259	1,284	△ 25
				自己株式	△ 46	△ 46	△ 0
				その他の包括利益累計額	66	83	△ 16
				非支配株主持分	19	19	△ 0
				負債純資産合計	2,435	2,591	△ 155

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 61.9%、前年度末 59.8%

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 →直近の公表から修正なし

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 業績計画



- 当第1四半期累計期間における連結業績は、前年度末に積み上がったBA・AA事業の受注残高が着実に売上計上されたため前年同期比で大きく増収、増益となった。ただし、この業績結果は想定の範囲内であり、概ね上期業績予想の計画線上で推移しているため、2016年5月13日発表の第2四半期累計期間及び通期の業績計画は、これを修正せず、据え置くものとする。

BA事業

第1四半期(4-6月)に、積み上がった受注残高を背景に上期中に予定される売上の計上が集中したため、第2四半期(7-9月)は前年同期比で減収・減益を見込むが、良好な国内建設投資動向を受けて業績は堅調に推移する見込み。

AA事業

第1四半期(4-6月)に、積み上がった受注残高が着実に売上計上され、好調な業績結果となったが、世界経済の先行きが不透明なことから国内外における設備投資需要の伸び悩み、円高の影響を見込む。

LA事業

事業構造変革の成果及びのれん償却費減少による着実な収益改善を見込む。

[単位: 億円]

	当年度			前年度	対前年度	
	上期	下期	通期		増減	増減%
売上高 (のれん償却額)	1,155 (0)	1,445 (0)	2,600 (0)	2,568 (6)	+31 (△6)	+1.2
営業利益 %	38 3.3	152 10.5	190 7.3	171 6.7	+18 +0.6P	+10.9
経常利益	36	149	185	166	+18	+11.3
親会社株主に帰属する当期純利益 %	20 1.7	95 6.6	115 4.4	82 3.2	+32 +1.2P	+39.1

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 セグメント別計画



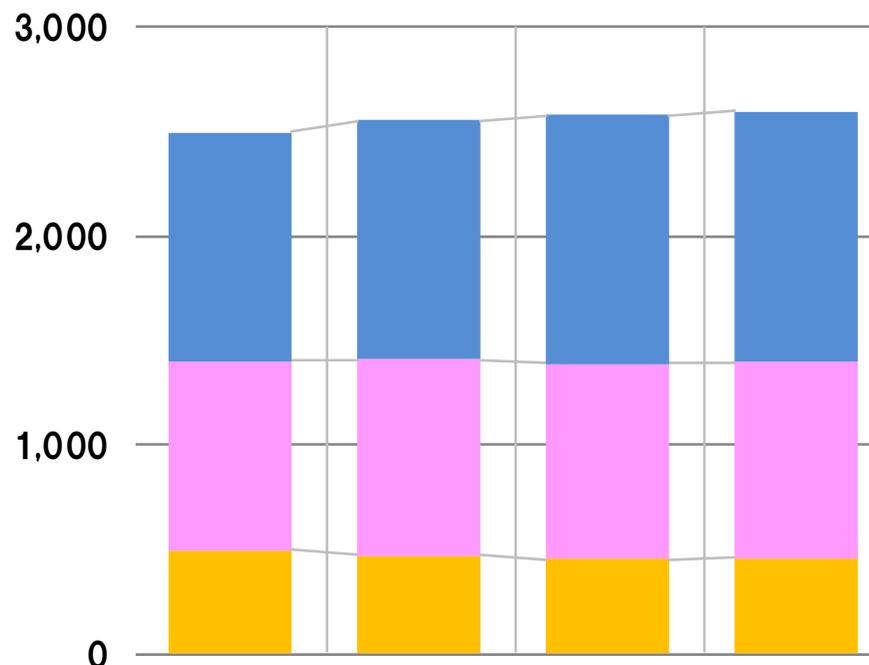
[単位: 億円]

	当年度			前年度	対前年度		
	上期	下期	通期		増減	増減%	
■ B A事業	売上高	470	730	1,200	1,188	+11	+1.0
	(のれん償却額)	—	—	—	—	—	
	セグメント利益	17	113	130	120	+9	+8.2
	%	3.6	15.5	10.8	10.1	+0.7P	
■ A A事業	売上高	460	480	940	935	+4	+0.5
	(のれん償却額)	(0)	(0)	(0)	(1)	(Δ1)	
	セグメント利益	14	29	43	50	Δ7	Δ14.5
	%	3.0	6.0	4.6	5.4	Δ0.8P	
■ L A事業	売上高	225	235	460	456	+3	+0.8
	(のれん償却額)	—	—	—	(5)	(Δ5)	
	セグメント利益	7	10	17	0	+16	—
	%	3.1	4.3	3.7	0.2	+3.5P	
連結	売上高	1,155	1,445	2,600	2,568	+31	+1.2
	(のれん償却額)	(0)	(0)	(0)	(6)	(Δ6)	
	営業利益	38	152	190	171	+18	+10.9
	%	3.3	10.5	7.3	6.7	+0.6P	

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移



[単位: 億円]



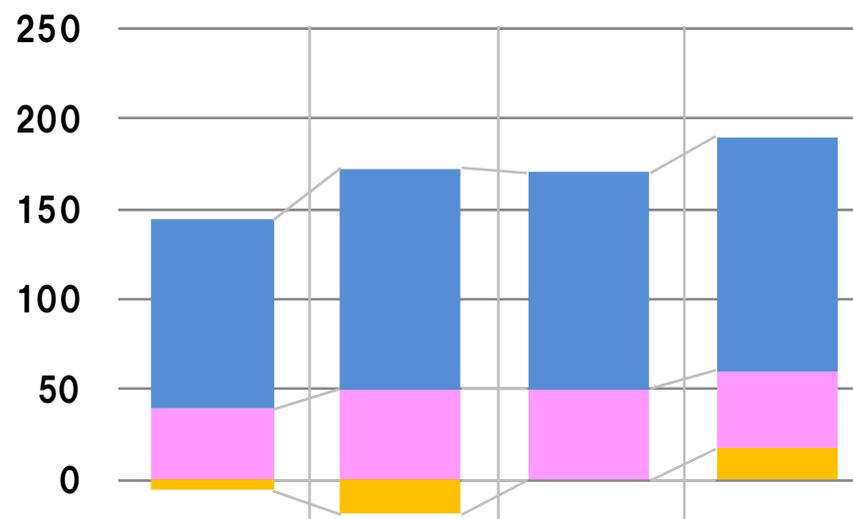
年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ BA事業	1,095	1,143	1,188	1,200
■ AA事業	908	936	935	940
■ LA事業	495	* 473	456	460
連結	2,484	2,544	2,568	2,600

※ アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント利益(営業利益) 推移

azbil

[単位: 億円]



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ BA事業	105	122	120	130
■ AA事業	39	50	50	43
■ LA事業	△6	* △19	0	17
連結	139	153	171	190

※ アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

3. 株主の皆様への利益還元

→直近の公表から修正なし

3. 株主の皆様への利益還元 配当金



2016年度 配当計画 → 期初計画から修正なし

配当金（年間）：1株当たり74円
(普通配当2円増配、記念配当5円実施)

【基本方針】

株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率、純資産配当率の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して、配当水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する。

2016年度は、株主の皆様への一層の利益還元を進めるべく、配当水準のさらなる向上を図り、普通配当を2円増配し、さらに当社創業110周年及び新名称azbil導入10周年を迎えるにあたり、1株当たり5円の記念配当を実施予定。

■ 2016年度(中間配当/期末配当)計画

	2015年度		2016年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	33.5	33.5	37.0(計画)	37.0(計画)
配当性向	59.4%		47.1%	
純資産配当率 (DOE)	3.1%		3.4%	

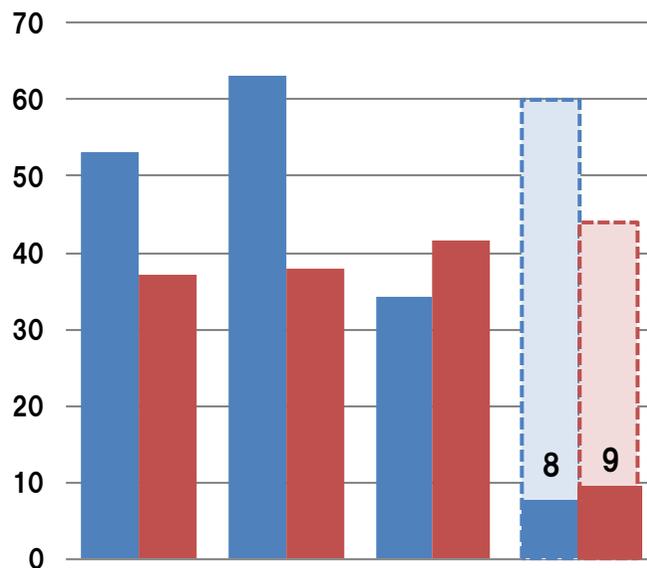
(ご参考) 2016年6月末時点 配当利回り 2.5%

補足資料

設備投資・減価償却費／研究開発費

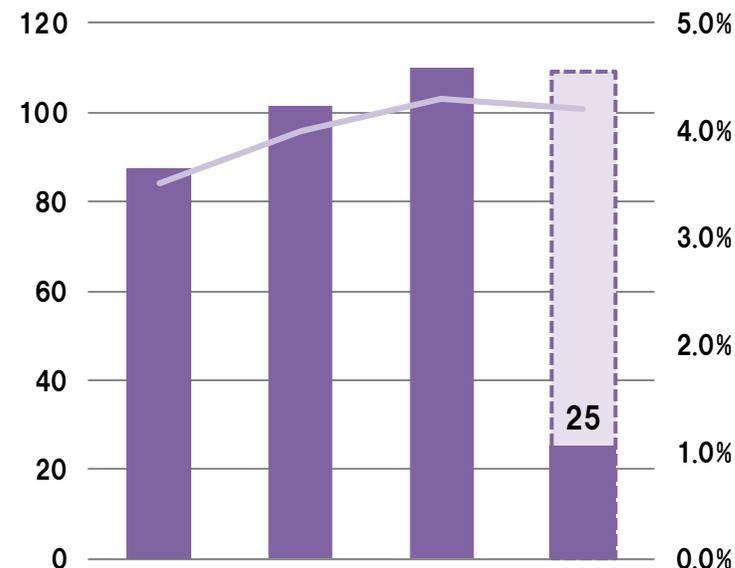
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ 設備投資	53	63	34	60
■ 減価償却費	37	37	41	44

■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ 研究開発費	87	101	110	109
— 研究開発費率	3.5%	4.0%	4.3%	4.2%

※ 2015年5月に稼働した基幹情報システムの更新に係る投資が2012年度から発生しています。これに加え、2014年度においては海外における生産設備への投資が発生しました。

※ 2016年度には、湘南・伊勢原工場の統廃合、藤沢テクノセンター研究・開発拠点整備に係る投資を計画しております

azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、
地球環境に貢献します。

アズビル株式会社は2016年に創業110周年を迎えます。



YAMATAKEで100年、azbilで10年。合わせて110年。
いつの時代も「人を中心としたオートメーション」で人々のシアワセを
第一に考えてきたazbilグループは、これからも計測と制御の技術のもと、
より一層の価値創造を進め、皆さまとともに歩んでまいります。

<お問い合わせ>

アズビル株式会社
グループ経営管理本部
IR室

電話: 03-6810-1031
メール: azbil-ir@azbil.com
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>